



「大谷翔平選手なら どうする？」

園長 笛木 哲

新型コロナウイルスが世界的に大流行するずっと前から、HIV/エイズが報道されることは少なくなりましたが、現在でも世界ではエイズにより 70 万もの人が亡くなっています。かつて日本でも意に反して輸血や母乳により HIV に感染し、死亡する人がいたことから恐れられました。故山本晋也さん(映画監督)が 25 年前に新聞に投稿した記事です。

*HIV(ヒト免疫不全ウイルス)に感染した結果、普段は感染しない病原体に感染しやすくなり、様々な病気を発症した状態をエイズ(後天性免疫不全症候群)と言う。1981年に初めてエイズ患者が発見される。【厚労省HPから】

HIV は空気伝染とか握手とかでは感染しません。抱き合っても一緒に回し飲みでお酒を飲んでも何でもありません。そういうことが分かっている私が、初めてエイズの患者さんとお会いし握手した。話をして外へ出た時に一生懸命に手を洗ったんです。頭では感染しないと分かっていたのですが、ハートで分かってなかったのです。看護婦さんに「手を洗っちゃった自分がどうにも我慢ならないんです」と言うと「私も最初そうしましたよ」と。去り際に「山本さん、手を洗ってから、その次にあなたが何を考えるかが大切なんじゃありませんか」って言って、白衣を翻して行っちゃいましたが、これが重かったですね。無知が恐怖を生むんです。恐怖は必ず偏見を生み、次に差別を生むんです。ですから、無知であることが一番、怖いんです。(朝日新聞)

エイズ患者が増えた時、同情が偏見に、偏見が差別に変わり、病と戦う患者をさらに苦しめたように、新型コロナウイルスへの恐怖は、私たちの思考や行動を狂わせます。

感染を防ぐ正解がまだないことから様々な考えが交差します。「もっと感染対策を強化しろ」という主張と、「コロナとの共存のため規制を緩めるべきだ」という主張が平行線をたどり、双方に受け入れがたい断絶を生みます。世界では「マスクは必要無い」と考える者が「マスクは必要」と考える者と大きな衝突を繰り返します。戦う相手はウイルスであったはずなのに、いつの間にか戦う相手が意見の合わない人間に変わる瞬間を見ると辛く悲しくなります。人と人との繋がりがこうも脆弱であったのかと。

科学的知見や様々な主張を知り、目の前の子ども達のためによりよい選択をしていかななくてはならない立場ですが、新型コロナウイルス感染に正対し、最善の回答を導き出すことは難しいものです。昨年、これまでの野球の常識を打ち破る大活躍をした大谷翔平選手。不可能を可能にした超人が、このコロナ禍にあるとねがわ幼稚園の園長なら、どんな判断をするでしょう。「大谷さんならどうしますか？」

「子どもの命を守る」「集団生活での育ちの場を守る」ために、緊張感をもちつつ感染防止対策を徹底し、幼稚園だからこそ育てられる学び、笑顔の保育を継続してまいります。保護者の皆様にも、ご理解とご協力をお願いします。

子どものことば



○猫じゃらしをもっている子に保育者が、「猫じゃらしだね」と伝え、「猫まみれだよ」と一人が言い、もう一人が「歯ブラシだよ」と続きます。

…長寿 TV 番組『笑点』ではありませんが、子どもの当意即妙な回答に「座布団1枚」です。猫を夢中にさせる猫じゃらしだから、猫じゃらしをもっていれば、周りに猫がたくさんよってきて猫まみれになるのかもしれませんが。猫じゃらしの歯ブラシはくすぐったそうです。

○朝の冷たい空気の中で、「手が冷たいよう」と保育者が言うと、「太陽が近くにあったら温めてくれるのにね」と一人が言い、隣の子が「宇宙人がもっと太陽を近くにしてくれるといいね」とさらに言葉を繋げます。

…太陽が熱を届けていることを科学的に学んでなくても、子どもたちは日光を浴びた芝生の上が気持ちよこと、日光に照らされた滑り台の上で冷えた手を温められることなど、体感的に学んでいます。子どもの思考は夢と現実を当然のように行き来できる柔軟さが持ち味です。

○幼稚園のエントランスで子ども達を乗せてくるバスが到着したときのこと。バスから事務長が降りてくると、側にいた子が「あれ普通の先生が乗っていないよ。職員室の先生だ」と教えてくれました。

…ふつうの先生とはきつと担任のことなのでしょう。彼は幼稚園の職種の違いを理解しているけれど、それを端的に表現できる言葉とまだ出会っていないのですね。普通の反対が希少、特別であるなら、事務長は一人で事務を担う希少で特別な存在。「違いの分かる子ども」です

園児が輝く時

※HPで「笑顔の子どもたち」を紹介しています。よろしかったらご覧ください。

<p>1月は朝マラソン 毎朝のマラソンは冷えた空気の中でしたが、どの子も最後まで走りきりました。</p>	<p>缶ぽっくり大会 ちゅうりっぷ組は冬休み中に練習した成果を発揮し、どの子も上手に歩きました。</p>	<p>ゆうびんごっこ 職員室前のポストにハガキを入れると年長郵便屋さんが各教室に届けてくれます。</p>
<p>こままわし大会 喜びも悔しさもあったけれど、最後は先生からメダルをかけてもらいニコリ。</p>	<p>保育参観の中止 新型コロナウイルスの感染拡大のため最後の保育参観は中止となりました。残念。</p>	<p>ひよこ組 ちよっぴり吹く冷たい北風に負けずに、園庭を縦横に走り回って手作りの凧をあげました。</p>

2月4日は立春。春の始まりです。新型コロナウイルスの終わりは見えませんが、子ども達の植えたチューリップや桜の芽がぐんぐん伸びて、膨らんでいます。終わらぬパンデミックはないことを信じ、子ども達と一日一日を大切に過ごしてまいります。もう少しの辛抱と、これからも感染防止のためのご協力をお願いいたします。

